

---

# Detective

高富晴義

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D e t e c t i v e

### 【コード】

N 7 9 9 2 C

### 【作者名】

高富晴義

### 【あらすじ】

世界に住む、不思議な能力者同士の頭脳勝負・・・最後まで生き残るのは誰だ？

## 第一章・異変（前書き）

この小説には、猟奇的な描写が描かれているので心の弱い方はご遠慮下さい。

## 第一章・異変

世界には不思議な能力を持った人間がいるという・・・

彼もその1人になろうとしている・・・

西暦2010年・・・

俺の名前は、月島 裕一・・・

何の変哲もない只の高校生である

学校に着き、カバンを広げる・・・

ハッキリ見えない、眼鏡を掛けているはずなのに。

「おかしいな・・・」

眼鏡を外してみる・・・すると

「あれ、見える・・・見えるぞ!!」

そう、俺の視力が急激に回復したのだった・・・

しかし、次の瞬間には視力は元に戻ってしまった。

体育の時間、運動神経もそれほど良くない俺にとって退屈な時間だった。

しかし、今日の野球は違うかった4打席4ホームラン・・・

帰り道、急いで帰っても40分はかかる道を5分で帰ってしまった・・・

俺は、やっと自分の変化に気付いた・・・

俺が、求めた身体能力が手に入るようになったのであろう・・・

「これで、俺に敵う人間はいない・・・」

私の名前は水野 怜華。

世界で一番美しく雅やかな高校生です。

しかし、私にも想いを寄せる人がいます。同じクラスの月島 裕一君でございます。

今日も、月島君一筋で生きていきます

「月島君ともっと仲良くなりたいと・・・」

「月島君!!!」

「えっ、水野さん何かよう?」「水野君、今日の野球大活躍でございましたね!!」

「ごめん、今日急ぐから!!」

・・・行つてしまいましたわ。

「さあて、由香子にでも相談しましょうか」

家に帰った私は、家の鍵が閉まっている事に気付いた・・・

「なんで開いてないのよ・・・」

私は携帯を取り出した・・・

すると、携帯が変形して鍵になってしまったのでした。

「えっ?」

私は不思議に思いながらも、その鍵を門の鍵穴に差し込んでみた・・・

「ガチャ」

開いた・・・

「!!!」

鍵が携帯に一瞬で戻ってしまった・・・何が起ったのでしょうか?

私は花丘 蓮次と申します。

毒により100人以上の人々を殺していききました、職業は勿論無職です。

私は、数年前から毒を空気から作り出す能力を手に入れた・

今回の目標は斎藤 芳美、警察官である

私の復讐の為に5人が犠牲になる予定だ。

斎藤 芳美

金井 良

山村 健太

四宮 正子

渡辺 進

奴らは、ある共通点で選ばれている。

奴らに復讐するまでは捕まるわけにはいかない・・・

私は、斎藤 芳美の家前まで到着した。

「すいませーん、トイレお借りしたいんですが」

「ああ、どうぞ」

「すいません」

私はトイレ横の洗面台の蛇口に炎症を起こす毒を塗った。

そして、タオルにDの文字を書く・・・

これで、作戦終了だ・・・

私は、探偵事務所を経営する典妙寺 豪と申します。

今、私が追っているのは連続毒殺犯・・・完璧主義の凶悪殺人犯です。

奴は、一切証拠を残さないのが特徴で警察も一切証拠が掴めていない。

私には、不思議な能力がある・・・顔みしりの人間が今ドコに  
かが一瞬で分かる、私はこの能力を「サーチ能力」と呼んでおり、  
他にも能力がある事を調べあげた。  
私はある能力者に急接近する事にした・・・  
そう私は月島 裕一に協力を要請しに来たのである。

典妙寺

「こんにちは、月島君」

月島

「どなたですか？」

典妙寺

「あなたは、最近不思議な能力を手に入れましたね？」

月島

「っ！・・・」

典妙寺

「どうやら、凶星のようですね」

月島

「あなた何者だ？」

典妙寺

「しがない探偵ですよ・・・」

さらに私は質問をした。

典妙寺

「あなたの能力は変装能力ですね？」

月島

「はいっ？、違いますよ？」

典妙寺

「嘘を言わないで下さい、では私の顔を想像して下さい・・・」

月島 裕一の顔は、みるみる私の顔になっていった。

典妙寺

「ご覧ください」

私は鏡を見せつけた・・・

月島

「か、顔がかわってる」

月島 裕一はビツクリしたようだ

そして、私は本題を語り始めました

続く



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7992c/>

---

Detective

2010年10月10日08時24分発行